【本教材について】

- テーマ： 2. 災害から住民の命を守るには
- 単元名： 1　災害発生の危険性と避難
- 所要時間： 60分程度
- 準備：

1. 自治体で指定されている避難先をスライドに反映して下さい。（19、23ページ）
2. 「3. 安全な避難行動」 は、「風水害（p.26～p.31）」と「地震災害（p.32～p.37） 」の2種類の【ワークショップ】があります。地域の状況に合わせてご利用下さい。
3. 補助教材「ワークシート」、「避難に関するチェックシート」と細マジック（黒と赤）、丸シール（赤と緑）を参加者人数分準備して下さい。
4. それぞれの参加者の自宅から避難所までが書かれている地図を準備して下さい（事前に、参加者から居住地域の聞き取りをするか、参加者自身に地図を持参してもらって下さい）。
5. 適宜、スライドの追加や変更をすることができます。参加者の特性（自主防災組織等の会長が多いか、在職期間が長いかなど）に応じて、内容の追加・削減や修正・変更を検討することで、より良い研修効果が期待できます。
6. 実際に研修を行う前に、何人かのグループを作り、練習し合う場を設けることもよい研修とするうえで効果的です。

自主防災組織等のリーダー育成研修

災害から住民の命を守るには

災害発生の
危険性と避難

学習目標と内容

●学習目標

災害発生時にとるべき行動を理解するとともに、情報収集を通じてどのように安全に避難するかを、自主防災組織のリーダーとして、住民等に伝えることができる。

＜目次＞

- 災害時にとるべき行動　P. 4～8
- 避難に関する情報の収集　P. 9～26
- 安全な避難行動　P. 27～45

5分

1. 災害時にとるべき行動

追加

- 受講者に対して、これから学ぶことについて問いかけ、興味を持ってもらいます。
- 風水害と地震の場合では、取るべき行動に違いがあること、その違いを意識しながら行動を大まかに確認してほしいことを伝えます。

災害の発生の恐れがある場合、
または発生した場合に、
あなたはどのような行動をとりますか？

災害発生前後にとるべき行動（主に自助・共助）

【風水害】

大雨・台風・竜巻等の恐れ

【住民等が取るべき行動】

自助　気象・避難等の情報収集

・気象情報や自治体からの避難情報等の情報の収集

自助　共助　公助　指定緊急避難場所等への避難・避難支援

・より安全な場所（指定緊急避難場所や近隣の安全な場所等」）への避難

・避難行動要支援者の避難を支援

洪水・浸水・土砂災害・高潮等の発生

共助　公助　指定避難所での避難生活・在宅避難者支援

・避難生活が長期化する場合、避難所運営

・在宅避難者で食料や救援物資等の支援が必要な方への支援

風水害の場合は、いのちを守るための避難行動までにはリードタイムが地震と比べて長く、自助・共助の力で命を守ることができる可能性が大きいことを伝えます。

災害発生前後にとるべき行動（主に自助・共助）

【地震災害】

地震の発生

【住民等が取るべき行動】

自助　身の安全の確保・避難

・身を守る行動、火の始末、自宅の初期消火、家族の安否確認

建物倒壊・火災の発生等

共助　安否確認・被害情報の収集・消火・救出・救護など

・安全第一

共助　避難誘導・避難支援・二次被害の防止など

・避難場所等への避難
・避難行動要支援者の避難支援等
・避難時にはブレーカーを切る、ガスを止める

共助　公助　指定避難所での避難生活・在宅避難者支援

・避難生活が長期化する場合、指定避難所の運営
・在宅避難者で食料や救援物資等の支援が必要な方への支援

地震では、いのちを守るための避難行動には、津波からの避難と、建物倒壊や火災の危険が身を守るための避難の２種類があることを伝えます

1. 災害時にとるべき行動
- まとめ -

- いのちを守るためには、災害の特性に合わせ、適切なタイミングで、危険な場所から安全な場所へと避難することが重要です
- いのちを守る行動（避難）は、自助を基本に、共助の力で支えます
- 自助・共助の部分は自主防災組織がその啓発も担います

30分

2. 避難に関する情報の収集

避難の原則は、
「自らの判断で避難する」ことです

避難するかどうかを決めるのはあなた自身です

追加

- 避難を判断するのは様々な情報があり、その情報について説明することを伝えましょう。
- 何人かの受講者を指名して、答えてもらうのもよいでしょう。

風水害が発生する恐れあり！

あなたは何の情報をもとに避難の必要を判断しますか？

避難に関する情報

避難判断の材料となる、災害の種類に応じた情報を理解しましょう

「避難」に関する情報

- 避難情報等
- 洪水に関する情報
- 土砂災害に関する情報

「避難に関する情報チェックシート」

避難に関する情報チェックシート

区分	警戒レベル	情報の名称	とるべき行動	チェック☑ 避難準備	チェック☑ 避難開始
避難情報等	3	高齢者等避難	避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等とその支援者は、避難をしましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。		
	4	避難指示	速やかに避難先へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。		
	5	緊急安全確保	すでに災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動をとりましょう。		
洪水に関する情報	2	氾濫注意情報	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。		
		洪水警報の危険度分布（注意）			
	3相当	氾濫警戒情報	避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等とその支援者は、避難をしましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。		
		洪水警報			
		洪水警報の危険度分布（警戒）			
	4相当	氾濫危険情報	速やかに避難先へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。		
		洪水警報の危険度分布（非常に危険）			

- 風水害の場合は命を守るためのリードタイムを有効に活用するために、避難判断の材料となる情報の意味と自身や家族がとるべき行動を事前に知り、どの情報を入手した時に、どのような行動をとるかを予め決めておくことが大事であることを伝えます。
- チェックシートを用いて情報の種類とその意味、とるべき行動を説明しましょう。
- チェック欄を用いて、自分自身の行動（避難準備/避難開始）にチェックを入れるワークを実施するのもよいでしょう。（マイタイムラインの簡易版）

情報の入手方法 ―風水害―

様々な手段を使って情報を入手し、地域の住民に正確な情報を伝達しましょう

- 自治体からの避難情報を待っていると、避難が遅れることもあるため、自ら情報を入手するよう心がけましょう。

避難に関する情報（避難指示等）

洪水に関する情報（洪水警報等）

土砂災害に関する情報（避難指示等）

複数の情報の入手方法を記載しています。研修を行う地域にあった情報の入手方法をカスタマイズしてください。

- 実施する自治体にあった情報伝達ツールを説明しましょう。
- 複数の手段を確保しておくことが大事であることも伝えます。
- 登録型のアプリを持っている自治体の場合は、登録できるサイトのアクセスできるQRコードなどを掲載し、登録を促すとよいでしょう。

防災気象情報　－風水害－

風水害から身を守るため、気象情報に注意しましょう

気象特別警報・警報・注意報

気象庁が大雨や強風などによって災害が起こるおそれやその重大さに応じて発表

種 類	気象状況	内 容	警戒レベル（相当）
注意報	大雨、洪水、強風、高潮など	災害の起こるおそれがある場合に発表	2
警 報	大雨、洪水、暴風、高潮など	重大な災害の起こるおそれがある場合に発表	3
特別警報	大雨、暴風など	重大な災害の起こるおそれが著しく大きい場合に発表	5

情報の入手方法 ： テレビ、ラジオ、防災アプリ、気象庁ホームページなど

・入手方法は、自治体にあわせてカスタマイズしましょう。

洪水・土砂災害に関する情報　－風水害－

地域によっては、洪水や土砂災害に関する情報が重要になります

洪水に関する情報

指定河川洪水予報

洪水予報の種類	求める行動	警戒レベル
○○川氾濫注意情報（洪水注意報）	氾濫発生に注意	2
○○川氾濫警戒情報（洪水警報）	避難準備、避難開始など	3
○○川氾濫危険情報（洪水警報）	避難、いのちを守る行動	4
○○川氾濫発生情報（洪水警報）	氾濫水への警戒	5

土砂災害に関する情報

情報の名称	求める行動	警戒レベル
土砂災害警戒情報	避難、いのちを守る行動	4

情報の入手方法　：　テレビ、ラジオ、防災アプリ、気象庁ホームページなど

・入手方法は、自治体にあわせてカスタマイズしましょう。

風水害の避難情報等　－風水害－

避難を判断する上で、最も重要な避難に関する情報を理解しましょう

警戒ﾚﾍﾞﾙ	種類	気象情報（例）	避難行動
1	特になし	早期注意情報	災害への心構えを高める
2	特になし	大雨・洪水・高潮注意報、氾濫注意情報	避難に備え自らの避難行動を確認する
3	高齢者等避難	大雨・洪水警報、氾濫警戒情報、高潮注意報	高齢者など避難に時間を要する方とその支援者は避難を開始 その他の人は避難準備し、自主的に避難
4	避難指示	土砂災害警戒情報、氾濫危険情報、高潮特別警報、高潮警報	避難が必要な住居者等は全員速やかに避難 外に出ることによってかえって命に危険が及ぶような状況では、近くや自宅内のより安全な場所
			緊急に避難 避難場所等への避難に限らず、状況に応じて、近くや自宅内のより安全な場所へ避難
～～〈警戒レベル4までに必ず避難〉～～			
5	緊急安全確保	大雨特別警報	既に災害が発生している状況であり、命を守る最善の行動をとる

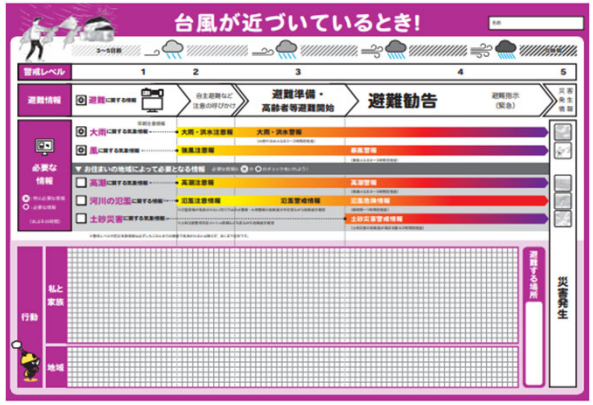
・警戒レベルと市区町村が発令する情報と避難行動の関係、また気象庁が発表する防災気象情報（例）について説明しましょう。

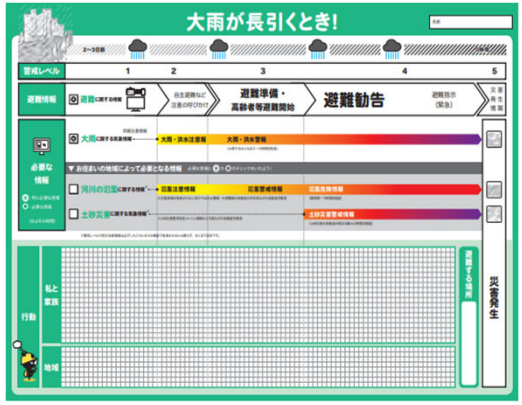
【事例】「避難判断するタイミング」についての取組

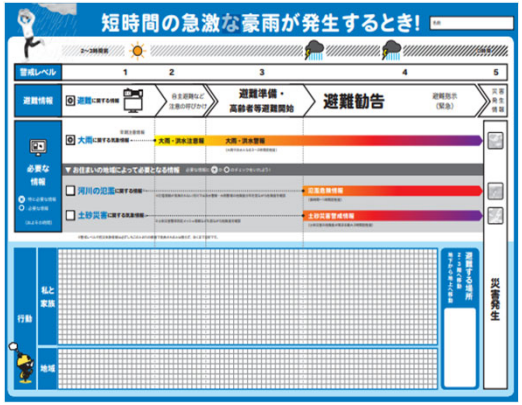
■マイ・タイムラインを活用した避難判断（東京都）

○いつ避難に備えた行動をとるのか、一人一人があらかじめ決めたもの

○雨や風は事前に予測できるため、風水害が発生する前に避難が可能







・自治体独自の「マイタイムライン」があれば、それについて説明しましょう。

【事例】「避難判断するタイミング」についての取組

■避難スイッチを活用した避難判断

（兵庫県宝塚市川面（かわも）地区）

○ 自分の身を自分で守る為、地域の災害目印(過去の経験や前兆現象など)やいろんな災害情報(気象情報や河川情報など)を利用して災害時の行動タイミングを前もって考える取り組み

○ 地区を流れる小さな川の水位が2/3を超え、雨が継続する場合を避難スイッチにした

- 【避難スイッチ】とは、京都大学の矢守克也教授が提唱している「自分が避難を判断する基準をあらかじめ決めておく考え方」です。
- ポイントは、「自分で得た情報」「体感したこと」「周囲からの声かけ」の３つ。
- 地域の特性や個人の状況による避難を判断する基準は違うため、一人ひとりが予め考えておくことが重要であることを伝えます。
- 事例のように、地域で避難スイッチを考える取組を進めることも有効であることを伝えましょう。

風水害発生前後の避難行動の流れ　－風水害－

気象情報や、市町村が発令する「避難に関する情報」に注意し、タイミングを逸することなく避難することが重要です

危険の前ぶれ　**準 備**

逃げどき　**避 難**

速やかに避難

命を守る

警戒ﾚﾍﾞﾙ	市町村が発令する避難情報	警戒レベル相当の情報（例）
2	避難行動の確認	氾濫注意情報 大雨注意報　等
3	高齢者等避難	氾濫警戒情報 大雨警報　等
4	避難指示	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報　等
警戒レベル4までに必ず避難！		
5	緊急安全確保	氾濫発生情報 大雨特別警報　等

- 市区町村が発令する避難情報を手掛かりに、危険な地域にいる場合は、警戒レベル4までに避難を完了させることが大事であることを伝えましょう。
- 安全な場所にお住まいの方は、避難せず安全な自宅等で安全確保しておくことも伝えましょう。

避難する場所 ―風水害―

避難する場所は、そのときの状況によって変わります

緊急度

指定緊急避難所への立退き避難

原則は指定緊急避難所への「**早期の立退き避難**」

事前の準備と早めの判断・行動が必要

近隣の安全な場所への立退き避難

浸水が既に始まっていて移動が危険

避難経路の途中に土砂災害の恐れがある

家の中の安全な場所で屋内安全確保

外に出る方がかえって危険な場合は、その時点でいる建物にとどまる

建物内のより安全な場所（上の階、山から離れた部屋）へ移動する

- ハザードマップを用いて自宅等の危険を確認しておくこと、危険な地域にいる場合は、早めに立退き避難をすることが重要であること、土砂災害は突発的に発生し圧倒的な破壊力があるので、特に早期の立退き避難が重要であることも伝えましょう。

風水害の避難先

避難先は、安全な場所であることが重要
災害の種類に応じて、安全な場所（避難先）は違います
安全な地域の親戚や友人の家に避難することも有効です

本スライドの赤枠・赤字の内容は、研修を行う地域の情報に置き換えて下さい。

各種災害における避難先について

① 【浸 水 害】**市町村が地域毎に定める避難場所**

② 【土砂災害】**市町村が地域毎に定める避難場所**
または**堅牢な建物内の安全な場所**

参考：消防庁「自主防災組織の手引き」

風水害における自主防災組織の主な活動　－風水害－

早期に情報伝達や避難等の行動をとり、被害を軽減することが重要です

	災害時の状況	自主防災組織に期待される活動・役割
災害発生前	・気象情報に注意し、避難情報に備えて行動 ・地域の災害状況に注意	・住民への避難の呼掛け ・被害を抑える行動（土嚢積み等） ・避難支援
風水害発生		
災害発生後	・早期に避難を完了し、避難所等で住民の安否確認等を実施する時期 ・状況に応じて、水防活動や救出・救護を実施	・自身と家族の安全確保 ・水防活動 ・安否や被害についての情報収集 ・救出活動 ・負傷者の手当等

・避難行動は「自助」が原則であるが、地域には災害に向き合う力が弱い人たちがいて、その人たちを地域で支え合う「共助」の力が重要であることを伝えましょう。

地震発生後の基本的な流れ　ー地震ー

自分と家族の安全を確認した後、協力・連携して、ひとりでも多くの人を助ける（共助）取組みを実施することが重要です

（緊急地震速報）

地震発生！

発生時

周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。
（全ての地震で緊急地震速報が発表されるものではありません。）

身の安全の確保（いのちを守る）
物が「落ちてこない・倒れてこない・移動しない」場所に移動

発生直後

火の始末・初期消火、出口の確保
家族の安全確保・安否確認、情報収集
津波の危険からの避難

一次的な避難の判断

一時集合場所や広域避難場所へ避難

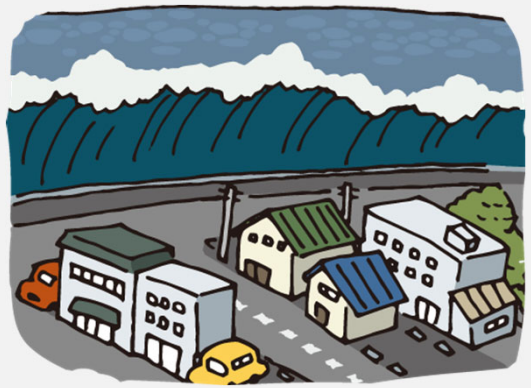
自身と家族の安全が確認

助け合い（共助）
隣近所や自主防災組織等で協力して、ひとりでも多くの人を助ける

- 津波の危険のある地域がある場合は、揺れが収まったら津波から避難することが重要であることを伝えます。
- 建物倒壊や火災が発生した場合は、地域で助け合いながら、安全な場所へ避難することが必要であることを伝えます。

地域特性に応じた対応の違い　－地震－

地域特性に応じて対応の優先度が異なることがあるため、日頃から地域の特性を把握することが重要です



沿岸部・津波被害が想定されている地域

最優先で津波から逃れることができる場所へ避難する

山間部・土砂災害の危険が想定されている地域

火の始末後に、土砂災害の危険がない場所へ避難する

木造住宅密集地域・延焼火災の被害が想定されている地域

初期消火でも食い止められないと判断した場合は、すぐに火災と煙の影響が少ない場所へ避難する

- 地域特性を踏まえて、より重要な特性について説明します。

地震災害の避難先

避難先は、安全な場所であることが重要
災害の種類に応じて、安全な場所（避難先）は違います
安全な地域の親戚や友人の家に避難することも有効です

本スライドの赤枠・赤字の内容は、研修を行う地域の情報に置き換えて下さい。

各種災害における避難先について

①【地　　震】**市町村が地域毎に定める避難場所**

②【津　　波】**高台や津波避難施設**（または2階以上の建物）

参考：消防庁「自主防災組織の手引き」

2. 避難に関する情報の収集
- まとめ -

- 風水害と地震災害とでは、避難に関する情報やとるべき行動に違いがあります
- 避難についての知識と情報を理解し、住民一人ひとりがいつ、どこに避難するか判断できるように啓発しましょう

25分

3. 安全な避難行動

- 防災に取り組む第一歩は、自分のリスクを知ることであることを伝えます。

皆さんの自宅周辺の災害リスクを確認する方法を学びましょう

「地震災害」と「風水害」の2種類がありますので、研修を行う方が、地域の実情に合わせて、適宜選択してご利用下さい。

参加者の皆さんが研修後に、
地域住民の皆さんと一緒に行うとより効果的です

自宅周辺の風水害リスクチェック

【個人作業】 ＜5分＞
ハザードマップを確認し、ワークシートを記入

①ハザードマップ上の自宅の位置を確認しましょう

②ワークシート(風水害)を記入しましょう

資料１（補助教材１限目）

ワークシート(風水害)

自分の地域における大雨や台風による被害を、ハザードマップや被害想定資料で確認してみましょう。

① 河川による洪水の可能性

洪水の可能性　あり・なし ／ 浸水深 □

② 土砂災害の可能性

土砂災害の可能性　あり・なし

③ 高潮の可能性

高潮の可能性　あり・なし ／ 浸水深 □

- ハザードマップの前提条件や、凡例の見方について説明をします。
- すべての受講者が確認できるよう、一人ひとりの取組状況を観察し、助言します。

＜風水害＞

皆さんの地域の避難先や、
自宅からの避難経路を確認
する方法を学びましょう

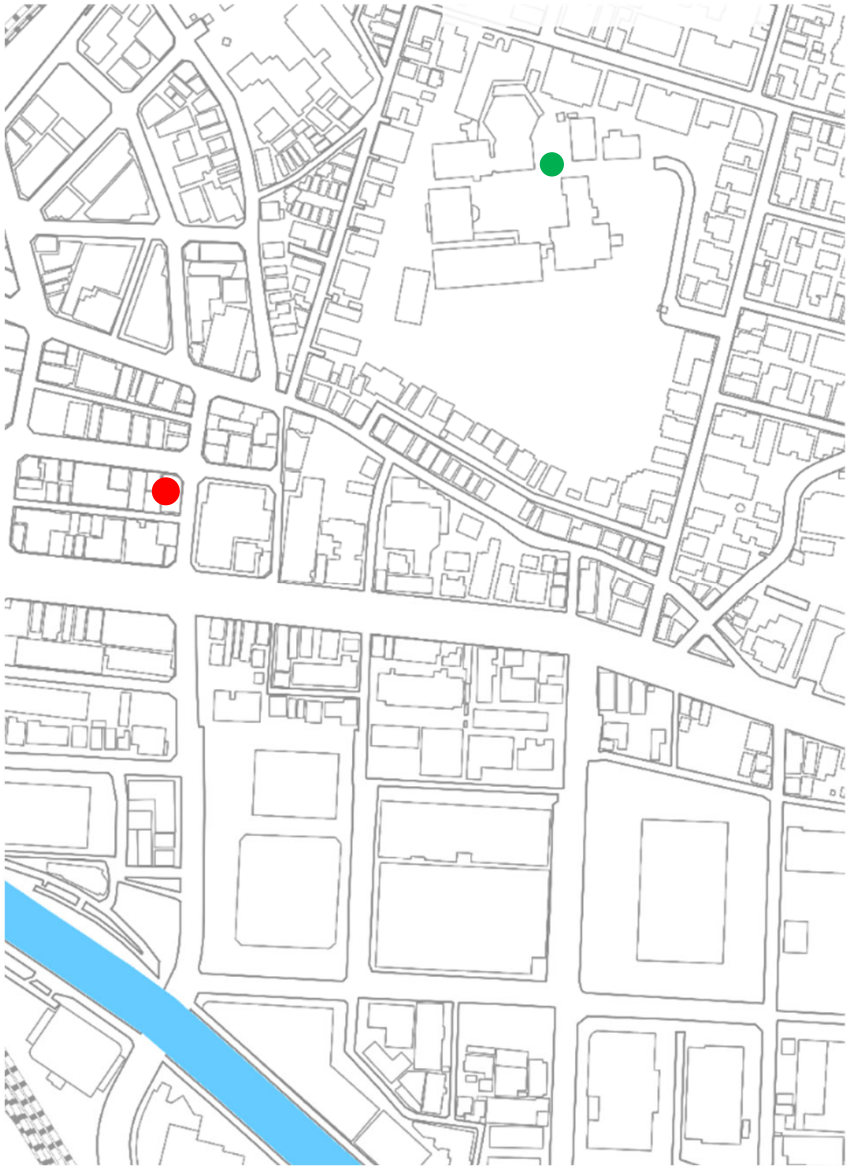
風水害時の避難先・避難経路

【グループ作業】＜5分＞
地域の避難場所を記入

①自宅の位置に**赤丸シール**を貼りましょう

②風水害時の地域の避難場所に**緑丸シール**を貼りましょう

※地震時の指定緊急避難場所と水害時の指定緊急避難場所は違う場合がある



本地図は、国土地理院が提供している「数値地図（国土基本情報）」及び品川区が提供している「品川区オープンデータ」をもとに作成

風水害時の避難先・避難経路

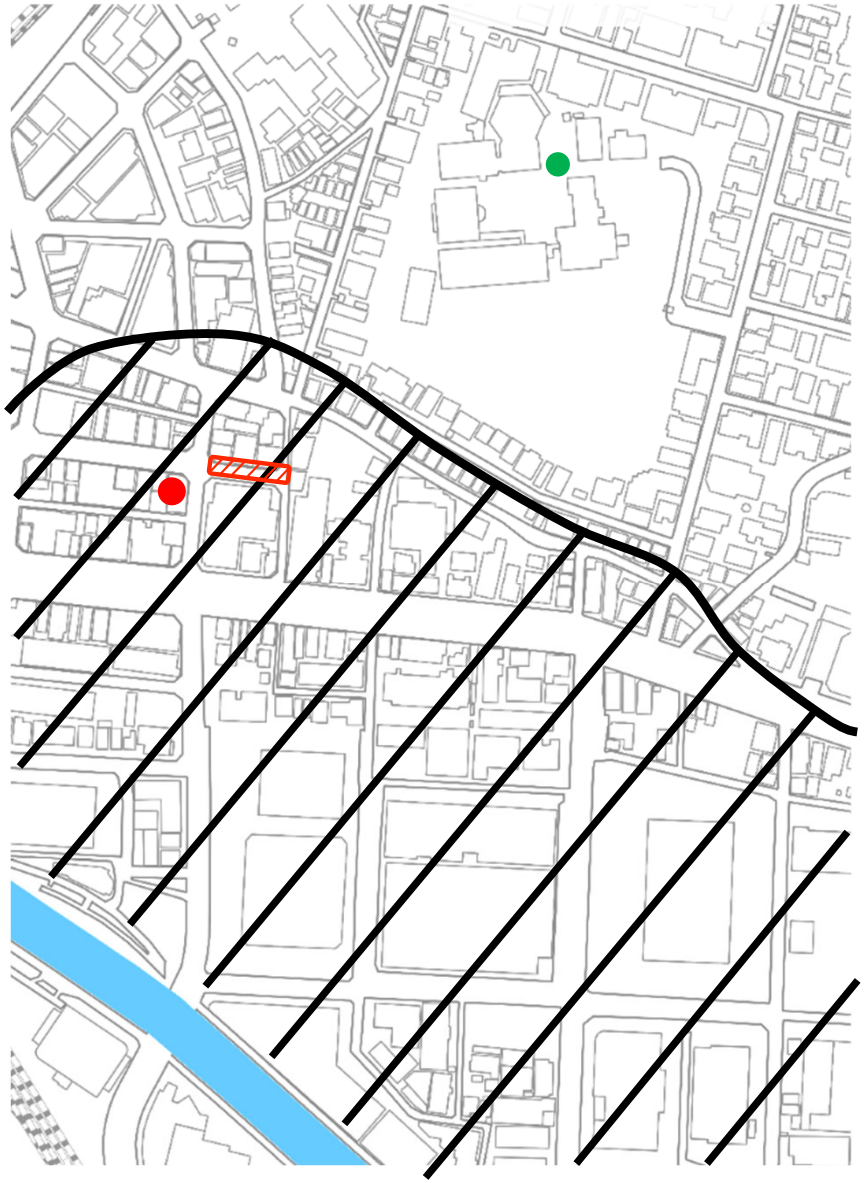
【グループ作業】＜5分＞
危険エリアの記入

③ハザードマップを確認し、浸水想定エリア、土砂災害危険エリアを**黒色で囲み斜線**を書き込みましょう

④アンダーパスの位置を**赤色で囲み斜線**を書き込みましょう。

＜確認するハザード＞

- 洪水・浸水・内水
- 高潮
- 土砂災害



本地図は、国土地理院が提供している「数値地図（国土基本情報）」及び品川区が提供している「品川区オープンデータ」をもとに作成

用語の説明

洪水	台風や大雨によって、河川の水が増加し、堤防を越水もしくは堤防が決壊する等して、流れ出すこと
内水氾濫	地表水の増加に排水が追いつかずに、用水路や下水溝などがあふれること
浸水	洪水や内水氾濫によって、家屋や道路等が水に浸かること
高潮	台風や発達した低気圧により、海面の高さがいつもより高まること
土砂災害	大雨や地震が誘因となって土石流・地滑り・がけ崩れなどによって、生命や財産が脅かされる災害のこと
アンダーパス	鉄道や道路の下を通る地下道のこと

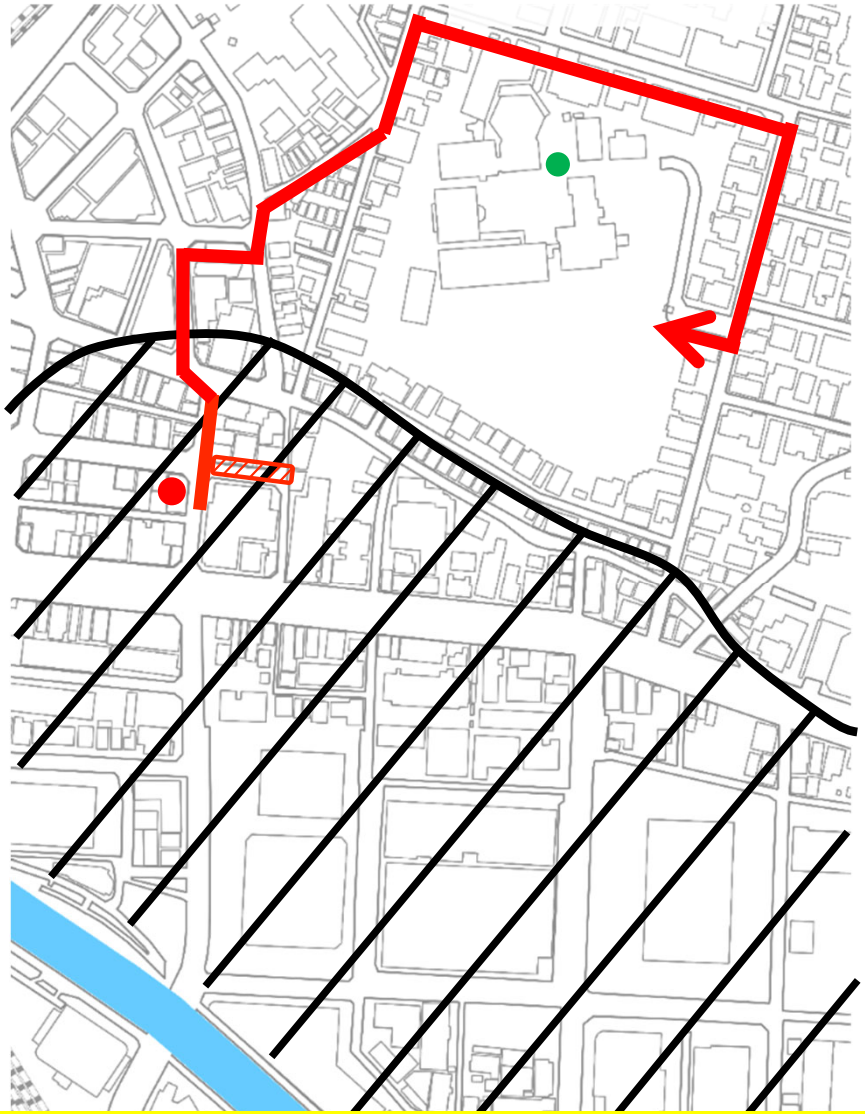
風水害時の避難先・避難経路

【グループ作業】＜10分＞
避難経路の記入

⑤自宅から避難場所までの避難経路に**赤線**を書き込みましょう。

＜避難経路のポイント＞

- 川や海岸の近くやアンダーパスなど浸水しそうな場所は避ける
- できるだけ広い道を通る



- **安全な道を通って避難することの重要性を伝えます。**

本地図は、国土地理院が提供している「数値地図（国土基本情報）」及び
品川区が提供している「品川区オープンデータ」をもとに作成

ワークのまとめ

- 危険な場所を避け、安全な避難経路を決めておきましょう
- 避難経路を実際に歩いてみると、実は危ない場所に気づくこともあります
- このワークは地域の住民の方と行っても効果的です

・家族や地域の方と実際に避難経路を歩いてみて、経路途上の危険箇所や、段差・階段など避難行動の困難、避難所要時間などについて確認しておくことの重要性を伝えます。

【参考】「重ねるハザードマップ」の活用

追加

■HP上で、災害リスク情報等を地図に重ねて表示！

○国土交通省が提供する「重ねるハザードマップ」では、洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示できます

- 洪水(想定最大規模)
- 土砂災害
- 高潮(想定最大規模)
- 津波(想定最大規模)
- 道路防災情報
- 地形分類

○固有の場所のリスクを表示する機能（リスク検索機能）もあります

重ねるハザードマップ　検索

参考：ハザードマップポータルサイト

・「重ねるハザードマップ」についての情報を提供するのもよいでしょう。

- 防災に取り組む第一歩は、自分のリスクを知ることであることを伝えます。

皆さんの自宅周辺の災害リスクを確認する方法を学びましょう

「地震災害」と「風水害」の2種類がありますので、研修を行う方が、地域の実情に合わせて、適宜選択してご利用下さい。

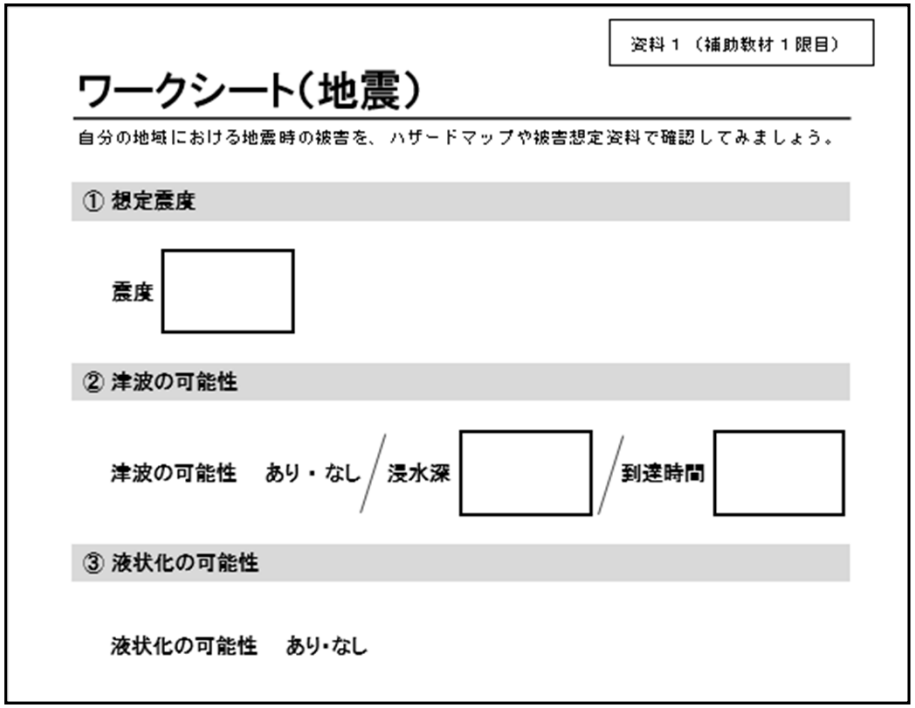
参加者の皆さんが研修後に、
地域住民の皆さんと一緒に行うとより効果的です

自宅周辺の地震災害リスクチェック

【個人作業】 ＜5分＞
ハザードマップを確認し、ワークシートを記入

①ハザードマップ上の自宅の位置を確認しましょう

②ワークシート(地震)を記入しましょう


資料１（補助教材１限目）

ワークシート(地震)

自分の地域における地震時の被害を、ハザードマップや被害想定資料で確認してみましょう。

① 想定震度

震度

② 津波の可能性

津波の可能性　あり・なし／浸水深　／到達時間

③ 液状化の可能性

液状化の可能性　あり･なし

- ハザードマップの前提条件や、凡例の見方について説明をします。
- すべての受講者が確認できるよう、一人ひとりの取組状況を観察し、助言します。

＜地震災害＞

皆さんの地域の避難先や、
自宅からの避難経路を確認
する方法を学びましょう

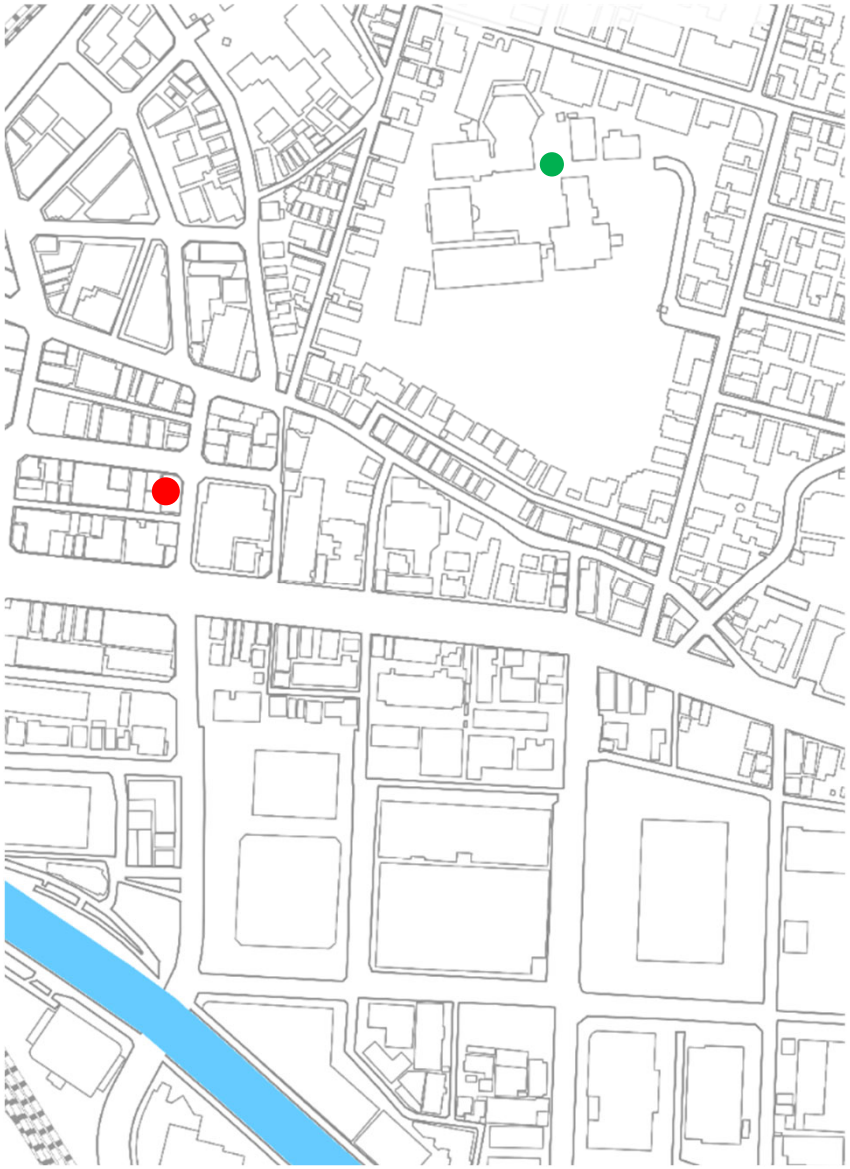
地震災害時の避難先・避難経路

【グループ作業】＜5分＞
地域の避難場所を記入

①自宅の位置に**赤丸シール**を貼りましょう

②地震災害時の地域の避難場所に**緑丸シール**を貼りましょう

※地震時の指定緊急避難場所と水害時の指定緊急避難場所は違う場合がある



本地図は、国土地理院が提供している「数値地図（国土基本情報）」及び品川区が提供している「品川区オープンデータ」をもとに作成

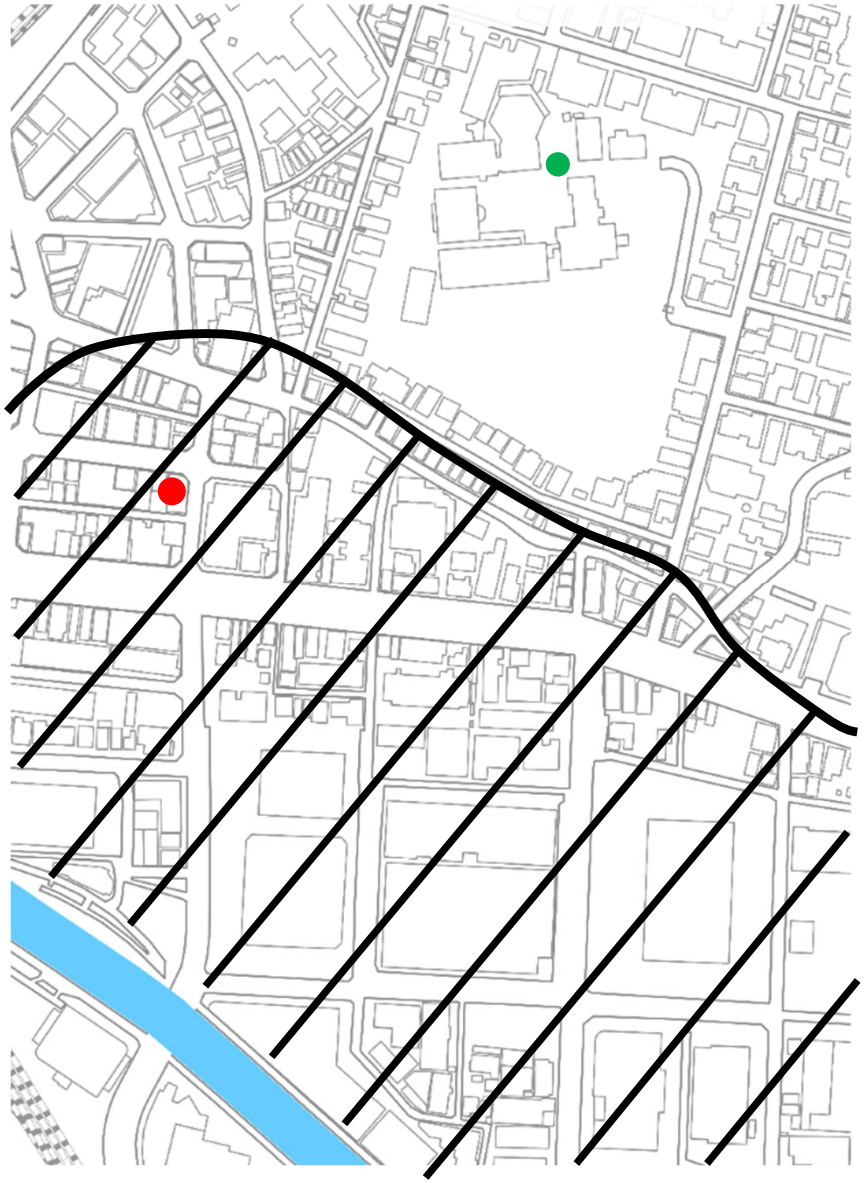
地震災害時の避難先・避難経路

【グループ作業】＜5分＞
危険エリアの記入

③ハザードマップを確認し、震度6弱以上のエリア、津波浸水エリア、液状化の恐れが高いエリアを<u>黒色で囲み斜線</u>を書き込みましょう

＜確認するハザード＞

- 震度
- 津波
- 液状化



本地図は、国土地理院が提供している「数値地図（国土基本情報）」及び品川区が提供している「品川区オープンデータ」をもとに作成

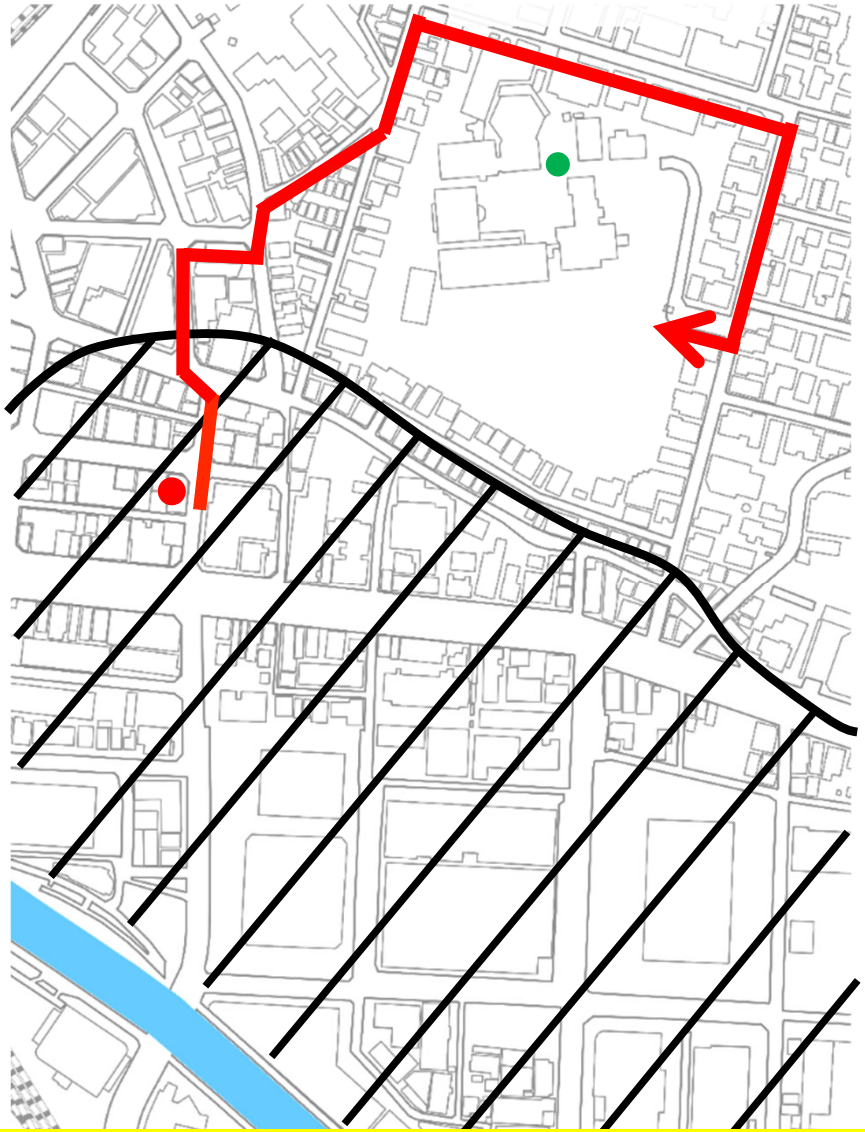
地震災害時の避難先・避難経路

【グループ作業】＜10分＞
避難経路の記入

④自宅から避難場所までの避難経路に**赤線**を書き込みましょう。

＜避難経路のポイント＞

- 古い建物・石塀・ブロック塀・自販機など倒壊の恐れのあるものを避ける。
- できるだけ広い道を通る。
- 複数の避難経路を検討します。



- 少し遠くても安全性の高い道など、できるだけ危険をさける経路を選択すること、いざという時のために複数の経路を確保しておくことを伝えましょう。

ワークのまとめ

- 危険な場所を避け、安全な避難経路を決めておきましょう
- 避難経路を実際に歩いてみると、実は危ない場所に気づくこともあります
- このワークは地域の住民の方と行っても効果的です

・家族や地域の方と実際に避難経路を歩いてみて、経路途上の危険箇所や、段差・階段など避難行動の困難、避難所要時間などについて確認しておくことの重要性を伝えます。

安全な避難行動のポイント

安全な避難行動をとる上で重要なこと

平常時

- 自宅周辺の**危険箇所**を知っている
- 災害に応じて**避難する場所**を決めておく
  - ✓ 行政が指定している避難場所のほか、安全な場所にある親せきや友人宅などもよい
  - ✓ 複数の避難先を決めておいた方が有効である
- **複数の避難経路**を準備し、実際に**歩いてみる**
  - ✓ 避難先までの所要時間を確認しておく
- **いろいろな避難訓練**を実施する
  - ✓ 夜間や平日昼間等の時間を変えての訓練や要配慮者の避難支援訓練などもよい

災害発生のおそれがあるとき

- 気象情報や避難情報など正確な**情報を入手**する
  - ✓ 情報の意味を正しく理解しておく
  - ✓ 情報の入手方法も事前に確認しておく

- 平常時の取組と、災害の発生の恐れがあるときに避難行動に移すための「想像力」「決断力」「行動力」と、避難行動を呼びかける、避難行動を支援する「共助力」が重要であることも伝えます。

3. 安全な避難行動
- まとめ -

- 安全に避難するためには、地域の災害危険性（リスク）を把握して、地域の住民と一緒に避難経路を考え、災害時には避難を支援することが重要です

まとめ

- 自助・共助の部分は自主防災組織がその啓発も担います
- 避難についての知識と情報を理解し、住民一人ひとりがいつ、どこに避難するか判断できるように啓発しましょう
- 安全に避難するためには、地域の災危険性を把握して、地域の住民と一緒に避難経路を考え、災害時には避難を支援することが重要です